

第 4 回 館 山 市 議 会 定 例 会 会 議 録

(第 3 号)

1 平成5年12月15日(水曜日)午前10時

1 館山市役所議場

1 出席議員 24名

1 番 秋山 光章	2 番 増田 基彦
3 番 島田 保	4 番 斉藤 実
5 番 宮沢 治海	6 番 植木 馨
7 番 鈴木 順子	8 番 永井 龍平
9 番 脇田 安保	10 番 庄司二三男
11 番 山崎 雅己	13 番 榎本 春光
14 番 小宮 利夫	15 番 山中金治郎
16 番 鈴木 勝美	17 番 鈴木 忠夫
18 番 日下 君敏	19 番 川名 正二
21 番 神田 守隆	22 番 福原 勳
23 番 石井 昌治	26 番 辻田 実
27 番 横溝 功	28 番 飯田 義男

1 欠席議員 2名

12 番 岩村 勝弘	20 番 生稻 隆
------------	-----------

1 出席説明員

市長 庄司 厚	助 役 小幡 清之
収入役 川上 義雄	市長公室長 永野 修
総務部長 斉藤 賢司	民生部長 渡辺 富雄
経済部長 小沼 晃	建設部長 三平 孝司
水道課長 谷貝 実	教育委員会 高橋 博夫

1 出席事務局職員

事務局長 兵藤 恭一	事務局長補佐 鈴木 哲
書記 四ノ宮 朗	書記 安田 仁一
書記 小山 真	書記 松浮 郁夏

1 議事日程(第3号)

平成5年12月15日午前10時開議

- | | | | |
|------|---|--------|---------------------------------|
| 日程第1 | { | 議案第58号 | 館山市地域福祉基金条例の一部を改正する条例の制定について |
| | | 議案第59号 | 館山市中山間地域農村活性化基金条例の制定について |
| | | 議案第60号 | 損害賠償の額の決定及び和解について |
| | | 議案第61号 | 損害賠償の額の決定及び和解について |
| | | 議案第62号 | 館山市国民宿舎利用料徴収条例の一部を改正する条例の制定について |
| 日程第2 | { | 議案第63号 | 平成5年度館山市一般会計補正予算（第3号） |
| | | 議案第64号 | 平成5年度館山市国民健康保険特別会計補正予算（第2号） |
| | | 議案第65号 | 平成5年度館山市水道事業特別会計補正予算（第1号） |
| | | 議案第66号 | 平成5年度館山市国民宿舎事業特別会計補正予算（第1号） |
| 日程第3 | { | 請願第13号 | 「義務教育費の国庫負担削減に反対する意見書」採択に関する請願書 |
| | | 請願第14号 | 「教育予算の増額に関する意見書」採択に関する請願書 |
| | | 請願第15号 | 病院給食費の自己負担に反対する意見書の決議を求める請願書 |
| | | 請願第16号 | 「保険で良い入れ歯」を求める請願書 |

開 議 午前10時03分

◎議長（福原 勤君） 本日の出席議員数24名、これより第4回市議会定例会第3日目の会議を開きます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

議案の上程

◎議長（福原 勲君） 日程第1、議案第58号乃至議案第62号の各議案を一括して議題といたします。

質疑応答

◎議長（福原 勲君） これより質疑を行います。

通告がありますので、発言を許します。

21番議員神田守隆君。御登壇願います。

（21番議員神田守隆君登壇）

◎21番（神田守隆君） 議案第58号館山市地域福祉基金条例の一部を改正する条例の制定についてお尋ねをいたします。

これまで2億1,000万円であった地域福祉基金を3億7,500万円に増額するための条例改定とのことであります。この地域福祉基金は、高齢者の保健福祉に関する民間活動の活発化を図り、高齢者の保健福祉を増進するためという目的で、平成3年12月に基金額7,000万円で出発しました。昨年にはさらに1億4,000万円が増額され、2億1,000万円となっていたものであります。この基金は、いわゆる基金の利息を地域福祉活動の財源に活用しようとするもので、果実運用型の基金であります。同じ基金額でも、金利が高ければ運用できる資金が多くなります。逆に低くなれば資金は少なくなります。地域福祉という事業は、景気変動にかかわらず、経常に必要な事業であります。こうした事業の性格から見ると、こうした資金が景気変動などで不安的なことは大変大きな問題点ではないかと思うのであります。特に、最近では金利が大幅に低下しております。このため、今回の基金額の増額は、地域福祉活動の財源確保の上で極めて重要な意味を持つものになるかと思うのであります。

そこで、現在のこの地域福祉基金に基づく事業としてはどのようなことが行われてきましたか。この基金に基づく事業の実績、その内容について御説明をいただきたいと思います。

次に、この地域福祉基金の運用について、今後どのような事業が検討され

るのでありましょうか。例えば、ことし社会福祉協議会から高齢者向けのパンフレットが発行され、私も大変重宝しておりますが、日常生活用具の中に寝たきりの方などに移動用リフトということが書かれていても、具体的なことはわかりません。こうしたものの展示があればすぐにわかります。あるいはひとり暮らしや老人世帯への生活援護型の配食サービス等、いろいろ今後のあり方が検討されていることと思います。どのようにお考えでありましょうか、御説明をいただきたいと思います。

次に、議案第59号館山市中山間地域農村活性化基金条例の制定についてお尋ねをいたします。半島振興地域等の農村の活性化のために基金を設けるとのことですが、基金額はわずかに1,000万円にすぎません。これで一体何をしろというのでありましょうか。どうしてこれで農村地域の活性化が図れるのでありましょうか。米が余るからと農家に年々減反を押しつけてきたのは政府でありました。その結果、政府備蓄米はわずか30万トンしかなく、ことしは凶作で、たちまち米不足になり、緊急輸入であります。そして、農家に引き続き減反を押しつけながら、米の自給体制維持の政策を放棄し、米輸入自由化の道に踏み出しました。私は細川内閣の国民と農民への二重、三重の裏切りに厳しく抗議いたします。農村の活性化の条件は、米を初めとした国民の食糧の自給率を高めることを農政の基本に据えることでなければなりません。この点を強く指摘したいと思います。

条例案の第5条では、市長は財政上必要があると認めるときは、確実な繰り戻しの方法、期間及び利率を定めて、基金に属する現金を歳計現金に繰りかえて運用することができとなっております。この5条の解釈についてお尋ねをいたします。現在の低金利のもとでは運用益も少ないが、一方高い金利のもとで借金した債務などもあるものと思います。例えば、農業関係の債務負担などで高金利の負担をしなければならないものがあるとすれば、この基金を繰りかえ、それらの返済財源に活用し、しかるべき確実な繰り戻しの方法、期間と利率を定めておけば、それは可能なことではないかと思うのですが、いかがでありましょうか。

次に、金利の高いときに発行した市債を低金利のものに借りかえ、例えば

平均で金利を1%引き下げれば、市の財源を1億円ほど新たに生み出すことになります。高い金利のもとで発行された市債を途中償還し、低金利のものに借りかえるなどの措置をとってはどうかと思うのであります。市債の借りかえについて、自治省は法的には可能とのことで、政府からの資金の貸付利率は貸し付け時の預託金利と同一に設定し、利ざやのない運用となっているので認められないが、銀行などから市が借りているものについては銀行と市との協議で決められるとしております。地方債の借りかえは実質的に新たな債務を負担するものではないので可能であり、地方債の償還年限を延長せず、かつ利率を高めないで借りかえるのは県知事の許可も必要ではないと言われます。この点についていかがお考えでありましょうか。

以上、御答弁によりまして再質問をさせていただきます。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの神田議員の質問にお答えいたします。

議案第58号に關します第1点目の地域福祉基金の運用実績についての御質問でございますが、社会福祉協議会で計画を進めております高齢者テレホンサービス事業や高齢者向けのパンフレットの作成など、地域ぐるみ福祉活動に対して助成しております。また、高齢者働く会への助成も行っております。

次に、第2点目の今後の運用益の活用についての御質問でございますが、引き続き高齢者の保健福祉に関する民間活動の活発化を図るため、社会福祉協議会及び高齢者働く会に助成していく考えでおります。

次に、議案第59号に關する第1点目の基金の運用と借りかえについての御質問でございますが、この基金の趣旨は、基金から生み出される果実運用によりまして地域活性化のための経費に充てるもので、現在のところ他への運用は考えておりません。

次に、小さな第2点目、基金の運用により債務の返済に充てる等、工夫する必要があるのではないかと御質問でございますが、館山市は大規模事業を抱えているところでございますから、財政の弾力性について配慮しているところでございます。したがいまして、財政調整基金等を取り崩し、繰り上

げ償還に充てることは財政運営上困難であると考えております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） 58号の福祉基金条例に関しての点でありますけれども、今回追加ということで3億7,500万円になったということで、基金の総額はふえましたから、来年以降この基金の運用益の総額がふえると思うんですけれども、同時に運用できる果実というものは、元金の総額がふえればそれに比例してふえるんですけれども、逆に金利によって上がったたり下がったりということになるわけで、これは果実運用型ということからすれば宿命的な問題だと思うんです。そうしますと、今後のこの運営の基本的な考え方としまして、こうした金利の変動——今非常に低金利になっていますから、これから金利が高くなったときならば、これでかなりの金額になるけれども、そういう予定でずっと進めたものが、金利が低くなったときに逆に大幅に運用できる果実の総額が落ち込んでしまうということもこの制度の中には当然あり得ることだと思うんです。そういう場合に、こうした民間の福祉活動に支障が出るような事態ということも当然考えなきゃならないんじゃないかと思うんですけれども、そこいらについてどういうふう考えておるのか。そういうときには一般財源からの助成とか、一定の水準を確保するとかということが当然考えられるわけですが、その点についてどういうふうにお考えになられているか。

それと、農村活性化基金条例についてでありますけれども、第5条の解釈の問題ということで、現在繰りかえ運用は考えていないということはわかるんですけれども、この条文の解釈としては可能だというふうに理解を私はするんですけれども、そういう法律上の解釈としてどうかという点です。

それから、一般的な問題になるわけですが、この中山間にかかわる1,000万の基金という問題ではなくして、館山市の財政運営全体にかかわる問題という意味でお尋ねするんですけれども、現在館山市の地方債の残高は107億9,000万だったかと思います。これは平成4年度の決算の数字だと思うんですが、こういう中で、現在平均的な館山市が地方債の中で金利負担を

している、利息負担をしておるといのは何％になっているのか。高いものは何％なのか。実際の今の金利動向は極めて低い金利になってきているわけで、その辺の実態を具体的にお示しをいただいて、そして法的には借りがえは可能だという自治省の見解もごさいます。これは政府関係の資金ということではなくて、銀行等からの、金融機関からの借り入れについては、相対の話の中で借りがえは可能だという解釈も示されているわけでありますから、そういう点について市としては金融機関との関係でどういうふうにお考えになっておられるか、お聞かせいただきたいなと思うんです。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（渡辺富雄君） まず、最初の第1点目の御質問でございますけれども、低金利の下、運営に支障があるんじゃないかというお尋ねでございますけれども、今回基金をまたさらに増額をお願いするわけでございますけれども、そういった状況の中で、低金利であっても平成5年度以降の福祉振興事業には支障はないというふうに考えているところでございます。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 総務部長。

◎総務部長（斉藤賢司君） 基金の繰りかえ運用についてでございますが、これは財政上必要があるときは、確実な繰り戻しの方法、期間、利率を定めて運用することができます。

次に、市債残高、平成4年度末の金額 107億の利率等の内訳でございますが、7％超8％以下の利率のものが39億 9,000万円、6％超7％以下が18億 4,000万円、5％超6％以下が14億 7,000万円、5％以下が34億 8,000万円という内訳でございます。

銀行等の市債についての交渉の余地はあるのではないかという御質問でございますけれども、確かに従来、協議の結果、繰り上げ償還した事例もございます。しかしながら、これは決算剰余金の一部を財源に充てまして繰り上げ償還を実施してきたものでございます。現在は多くの剰余金等を見込めないこと及び財政調整基金につきましては、現在、先ほど市長が御答弁申し上げましたように、大規模事業等を抱えている中で、財政の年度間調整の財源

として確保しておく必要がございます。そういう意味で、繰り上げ償還を現時点では考えておりません。しかし、今後の実質収支等の動向を見て、そういう余裕がございますれば、そういうことも含めて検討してまいりたいというふうには考えております。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 以上で21番議員神田守隆君の質疑を終わります。

次、26番議員辻田 実君。御登壇願います。

（26番議員辻田 実君登壇）

◎26番（辻田 実君） 通告をいたしました2点について質問を申し上げます。

第1点目は、議案第58号館山市地域福祉基金条例の一部を改正する条例の制定についてでございますけれども、ただいま神田議員の方からおおむね趣旨の質問がございましたので、その点については省略をいたしたいと思えます。

そこで、今回も普通交付税の基準財政需要額において地域主導による高齢者福祉行政を推進するための経費として措置されたわけでございますけれども、毎年これが――先ほどの神田議員の質問にございましたように、初年度7,000万円から始まりまして、今回1億6,000万円が追加されまして、このような3億7,500万円になるわけでございますけれども、こうした福祉基金の積み立てについては非常によいことであり、政府の方もいろいろ金がないと言ってもこういう面に回す金はまだあるんだなということで、非常に力強く思っているところでございます。

そこでもって、この件について2点ほど質問したいわけでございます。平成4年度の決算が9月議会でもって承認されたわけでございますけれども、その中におきましては、この基金から生まれたところの利息は395万円であったわけでございます。この395万円の利子が一般会計に繰り入れられまして、そして福祉に使われているわけでございますけれども、先ほどの市長の答弁によりますと、高齢者のテレホンサービス、さらには高齢者働く会等に補助して、そして使っておる、ということでございますけれども、決算上

の予算額を見てまいりますと、この 395万がそのままこれらの金に充当されておるのか、そこら辺の数字がちょっとわかりません。したがって、ここで私が聞きたいのは、利息から生まれた — 具体的に伺うために、平成4年度の決算に基づいて伺いますので、平成4年度の決算では 395万円が生まれたわけでございますけれども、これは平成4年度の先ほど申された福祉の推進のための事業費にはどういう形で予算化されているのか、そして支出されているのか、これは指定なのかどうか、これについてはこれをこうしてやるという形でもってイコールするものか、ただ全般的に予算が組まれておるのか、この点についてひとつわかりやすく御説明をいただきたいと思えます。

2番目には、今回増額されるわけでございますけれども、先ほど神田議員も質問しておりましたけれども、利息による運用でございます。平成3年度の利息と、それから今年度の利息は、公定歩合等から見てまいりますと、半分以下に下がってしまっているわけでございます。そして、この数日間に発表された各種総合経済研究所の発表によりますと、低金利時代はかなり長期にわたって進むんじゃないか、こういうことが予測されている中でもって、極端に言えば預金利息というものは全くなくなってしまいます。ほんのわずかし — 1%ないし2%、こういうことでございますから、定期等にすれば3%ぐらい確保できるかもわからないけれども、非常に低い。そうなってくると、せっかく3億7,000万円の財源を積んでおっても、これは積みっ放しということになりかねないんじゃないかということが懸念されるわけでございますけれども、この点についてはどう思うかと同時に、この議案の市長の趣旨説明によりますと、高齢者福祉のために役立てるということでもって交付税の中に含まれているわけでございますけれども、これは必ずしも基金に積み立てなきゃならないのかということ、直接その高齢者の民間活動に対して役立てるために支出できないかどうかということが第1点。2番目に、この基金で積み立てただけけれども、3年ぐらい — 今度で3年たつわけですから、3年ぐらいたったらその基金を崩して、そしてハードの面の福祉に活用できないのかどうか、この点がどうなっておるかお伺いをいたしたいと思

います。

次に、議案第59号館山市中山間地域農村活性化基金条例の制定について御質問を申し上げます。これの第1条でございますけれども、非常に難しい言葉で書いておまして、私もかなり農業経済については専門的に勉強しているつもりでございますけれども、この意味が全く理解できませんので、ひとつ文章の説明をわかりやすく具体的にお願いしたいわけでございます。具体的に申し上げますと、この第1条の冒頭にありますところの土地改良施設というのは、館山の場合にはどういう施設なのか。そして、その土地改良施設の多面的機能の維持ということでございますけれども、多面的な機能の維持というのはどういう形でなされるのか、何をどういう形でなされるのか教えていただきたい。その漢字の意味はわかりますけれども、具体的に館山の農業でもってどういう施設を――多面的にということはどういうふうにするのか、この点について教えていただきたい。

それから2番目には、ここに集落共同活動ということが書いてあるんですけれども、私も長い間議員をやっていますけれども、基本計画なり今度のマスタープランなり、いろんな統計の中にはこの集落共同体というものは全く出ていないんです、言葉的に。館山ではどういうものが集落共同体なのか、それはどこの地域にどのぐらいの集落共同体があるのか。これも初めてでございますから、私はこういう条例をつくるには、そういう分類なり、それがあるからこうつくると思うんですけれども、館山にはどうなのか。田んぼとか畑だとか雑種地だとか山林とか、こういう地目の分類というのはあるんですけれども、この集落共同というのは初めて館山では聞くんですけれども、意味はわかりますけれども、館山の場合にはどこがどう当てはまるのか、これを教えていただきたい。

3番目には、同じく中山間地域ということでございますけれども、これも意味はわかりますけれども、館山では中山間地域というものが今まで文字になったことは一回もございません。したがって、館山市におきますところのこの条例に基づいて施行される中山間地域というのはどこの地域のどのぐらいのところなのか、どのぐらいこの中山間地域というのは館山市の中に

— 大ざっぱで結構でございますけれども、どのぐらいどういうところにあるのか、これを教えていただきたい。非常に不勉強で申しわけないんですけれども、私は初めて聞くものですから、全くどういう概要かわかりませんので、この点を教えていただきたい。

4 番目に、この 2 条でございますけれども、この 2 条の積立金でございますけれども、ここに書いてあります当該年度の歳入歳出予算で決めるということになっているんですけれども、これはどういうことなのか。先ほどの 58 号の地域福祉基金条例を初め、館山市の幾つかの基金条例は、この積立金のところについては、必ず基金は 3 億 7,500 万円にする、そしてこれをまた改めるということでもって、追加するごとに条例改正をやっているんですけれども、この条例だけは当該年度の歳入歳出予算をもって充てるということでございますけれども、毎年毎年これはやっていくものなのか、なぜここはほかの条例と同じように額を明示して、何億円ということでもってやらなかったのか、こうしなければならなかった事情とこの効用について、これはほかのものと全くこれだけ違うわけでございますので、この点について、なぜ条例がこうなったのかお伺いをしたい。

5 番目に、これは神田議員から質問がありましたけれども、1,000 万円計上されたんですけれども、この 1,000 万円の計上では、利息を考えると、5 %としても 50 万円ぐらいになってしまうわけでございますから、これでもって先ほど申した中山間地域の土地改良の多面的な機能の維持とか、集落共同活動の活発化とか、こういうことが果たしてできるのかどうか。余りに額が低過ぎるので、ここら辺の見解をどのように考えているのか、あわせてお伺いしたいと思います。

以上、ひとつよろしく御説明のほどをお願い申し上げます。

◎議長（福原 勤君） 暫時休憩いたします。

午前 10 時 33 分 休憩

午前 10 時 44 分 再開

◎議長（福原 勤君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

庄司市長。

(市長庄司 厚君登壇)

◎市長(庄司 厚君) ただいまの辻田議員の御質問にお答えいたします。

議案第58号に関しましては、先ほどの神田議員の御質問と一部重複しておりますが、その他の問題につきましてお答えいたします。

まず、地域福祉基金の原資を取り崩す考えはないかとの御質問でございますが、この基金は果実運用型でございます。各種民間団体が行う高齢者の保健福祉に関する先導的事業に対する助成が本旨でございますので、今後とも基金の果実を有効に活用していく所存でございます。

なお、きょう追加がありました具体的計数につきましては担当からお答えいたします。

次に、議案第59号に関します中山間地域農村活性化基金条例の中山間地域、土地改良施設の多面的機能の維持及び強化、集落共同活動とはとの御質問でございますが、これにつきましては、農林水産省の説明によりますと、まず第1点、土地改良施設の多面的機能の維持及び強化とは、用排水路、農道及びため池等の土地改良施設を柱に、自然、歴史及び文化の地域資源を維持、強化することでございます。2番目の集落共同活動とは、区などの既存の集落組織が生産基盤あるいは自然環境保全のための軽微な改修や美化活動等を実施するものでございます。3番目の中山間地域とは、過疎、振興山村、離島振興及び半島振興地域でございます。

きょう追加の第4番目及び5番目につきましては担当部長よりお答えいたします。

以上です。

◎議長(福原 勤君) 民生部長。

◎民生部長(渡辺富雄君) 議案第58号の御質問に対する市長の答弁に補足をさせていただきます。

平成4年度の基金運用益 395万円の一般会計への繰り入れ計上に伴ってのどんな事業に充足したのかという御質問でございますけれども、社会福祉協議会に補助金として出しております地域福祉事業活動費補助金 294万 3,000円、それと高齢者働く会の自動車購入費66万 8,000円、合計しまして 395万

4,000円でございます。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 総務部長。

◎総務部長（斉藤賢司君） 交付税措置の基金積み立て以外の使用方法についての御質問でございますけれども、これは交付税におきまして果実運用型の基金に繰り入れるために措置されたものでございまして、これ以外の使用はできないものであるというふうに考えております。

次に、基金条例の設定についてでございますが、基金の額を定める方法と、今回条例提案しましたような形で毎年度基金として積み立てる額は一般会計歳入歳出予算で定める額とするという2つの方法がございます。定額で定める条例の定め方をした場合は、必要があるときは追加項目といたしまして次のような規定がされているところでございます。いわゆる必要があるときは、予算の定めるところにより基金に追加して積み立てをすることができる。さらに、前項の規定により積み立てが行われたときは、基金の額は積立額相当額増加するものとするということで手当てされておきまして、基金の額をそういうみなし規定で繰り戻す場合、あるいは運用して運用残が出た場合繰り戻す等、やり方はいろいろございますので、そういう形で調整されている条例の制定の仕方がございまして、ただし今回の場合みたいに福祉基金で相当大きい増額があった場合については、条例の整合性上必要がありますので、改正したものでございます。

中山間農村活性化事業に関する今回の条例にいたしましては、やはり1,000万円ということでございますので、その果実の運用等を行った場合、残金が出た場合、またそれを予算に組んで、その1,000万円の枠にとらわれないうで運用するような、基金を確保していくという方法もございまして、そういう意味でこういう2条の規定の仕方を考えたところでございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（小沼 晃君） 議案第59号の件につきまして補足的に御答弁させていただきます。

御質問は、低金利の中でその程度の利子によって何ができるかという御質問でございますが、今回の果実運用によります支援の対象が集落共同活動等のソフトの部分に対する支援ということでございます。ハードと違いまして、どの程度の費用が必要なのかというまだ不透明な部分もございます。それといま一つは、新規の事業ということでございまして、今後地域の皆さんとのかかわりの中でどのような事業が出てまいるのか、その辺を十分見きわめながら必要な対応をしてまいりたい、このように考えております。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 辻田 実君。

◎26番（辻田 実君） 58号について再質問をいたします。

確かに交付税の基準というんですか、指導では基金に積み立て果実型、こういうことになっておるかもわかりませんが、しかしながら先ほども申しましたように、今日のような低金利時代というものを迎えている中で、館山の場合今回は3億を超えるわけでございますから、こういう額が半永久的に凍結されておいていいものかどうか。随分国も悠長なことをするものだ。本来であれば、現在は3億のこの基金によって出てくる金は平成4年度でもって390万でございます。今度は財源が1億上がっても、金利が平成3年度よりずっと下がっているわけでございますから、余り大きくならないと思います。このように、せっかく3億7,000万円を積んで、これだけの大金があれば相当なまとまった事業ができる。特に、館山の場合には福祉センターも建てなきゃならないという状況もある中で、そういう財源へ繰り入れてもいいんじゃないかと思うわけでございます。そうでないと、利息だけですと、これだけの金をかざっておくだけで、実際には400万か500万ぐらいしか使えない。幾ら何でも随分むだじゃないかという――運用の仕方について効率が悪いんじゃないかと思うわけでございますけれども、国はどうしてもこうでなきゃならないということになると、これは市議会での問題じゃありませんで、国の問題でございますけれども、これは国会の方でもってひとつやってもらわなきゃならない問題ですけれども、随分ひどい予算の運用になりかねないんじゃないか、こういうことでもって、地方自治体を拘束する

ということになると非常に問題だと思うんですけれども、いろんなものは時効というものがあるから、5年なり6年たてば取り崩してもいい、こういうふうにはならないのか。今の答弁でいくと、半永久的にこれはもう基金として取り崩せないんだということになってくると、非常に問題が出ると思うんですけれども、そこら辺の見解についてはどうなのか。

これはここで結論を出せなければ、こういうことが館山の市議会に出たのということでもって、県なり国に対してこういうことはできないかという運動をやったり地方自治体として、市長も全国の市長会なり、そういうところでもって、やはりこういうふうに凍結されたんじゃないかと非常に困るので、やはりこれはせっきかくの金だから、その目的に沿ってハードの面でも使うようにしてもらいたい、こういうような要望活動が私は必要じゃないかと思うんです。ただ金があるだけで使えないということじゃ非常にもったいないしということで、その点についてどう考えるかということについて、この点についてお伺いします。

2番目の中山間地域ということですが、この答弁が漏れております。館山はどの地域をどうするのか。この条例ができるわけですから、私どももこの地域はこういう今度制度ができて対象になりますよというぐらいは理解しておきたいんですけれども、中間の山の間ということですから、その言葉はわかりますけれども、館山ではどこにそれが当てはまるのか、今まで一回も見解がないんです。おおむねこの地域のここら辺が中山間区域だと言わないと、全く理解に困ると同時に、その中山間地域の集落共同体ということですから、先ほど市長の答弁の中では、町内会というんですか、区が生産活動なり美化活動、そういう単位を言うということですが、単位はわかるんですけれども、そうするとその中山間区域にはそういう単位が現実的に館山には幾つあるのか、そして今の町内会は幾つぐらいの町内会がそれじゃあこの中山間地域として、この第1条の目的に従って活動資金の利益を受けることができるのか、これがわからないと、我々もせっきかく条例をつくったんですけれども、どこへどうしていいのか全くわからないんですけれども、ここら辺はどのように理解していいのか、この点について、問題はここが

一番問題なものですから、聞きたいわけでございます。あとの運用は別にしても、その点がわからないとどうにもならないものですから、館山の場合にはどうなのかということ。

それから次に、これは第2条の規定でございますけれども、総務部長が今答弁されたように、2つの方法——場合によれば3つの方法等もあると思っておりますけれども、館山市の場合には今まで基金は金額として固定しておる。だから、これだけはなぜこうしたんだということと、それから今回のこの補助金の1,000万円というのは非常に少ない。だけれども、これは国の交付金の中でもってあてがわれておる。これは来年、再来年、地域福祉基金のように億単位とか、そういう額の補助金が必ずおりてくるという約束なり展望なりがあるのかないのか、そういうことを前提にして基金の額を決定しなかったのかどうか、この点についてお伺いをいたしたいと思います。

とりあえず以上3点について再質問いたしたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（渡辺富雄君） 地域福祉基金の運用の仕方についての御質問でございますけれども、これは高齢者等の保健福祉の増進を図るために利子運用型ということで行っているわけでございますけれども、この運用に当たっては、これは自治省あるいは厚生省からの通知に基づきまして、基金創設の趣旨に沿って活用してほしいという、こういった趣旨のもとに実は運用しているわけでございます。今後もこの基金の運用によって地域福祉事業に有効に活用していきたいというふうに考えております。ただ、この地域福祉基金のほかに館山市福祉基金条例に基づきます基金の運用があるわけでございますけれども、これは資金利子運用型ではなくて、原資といいますか、そういったものを含めた運用ということもありますので、この基金との全体の中で福祉事業の推進を図っていきたいというふうに考えております。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（小沼 晃君） 議案第59号の御質問でございますが、まず中山間地域ということでございますが、これは市長の答弁にございましたように、

半島振興地域の指定を受けている市町村ということでございますので、館山市全域が中山間地域、こういうことでございます。

それから、集落とはどんな単位を言うのかというようなことでございますが、区、それから農家組合、水利組合、土地改良区というような、そういう土地改良施設を維持管理といひましようか、している1つの広さといひますか、そういうようなものを指しているということで御理解いただきたいと思ひいます。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 総務部長。

◎総務部長（齊藤賢司君） この2条の定め方については、先ほど説明しましたとおり、そのやり方によって、また基金の性格によって若干制定が違ふ場合がございます。

また、1,000万円の国の方からの手当てがされたということでございますけれども、これは現時点では本年度限りの手当てだというふうに聞いておりますけれども、今後の財政事情等によってどうなるか、このことについては、まだ今後のことについては、具体的なことについては伺っておりません。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 辻田 実君。

◎26番（辻田 実君） わかりました。

最初の58号でございますけれども、確かに国の指導なり方針はそういうことであろうかと思ひます。その国の方針を守るということは自治体にとって非常に大切なことであろうと思ひますので、その点については私はそういうことで結構だと思ひます。しかし私は、先日も申したように、過日文教民生委員会で出雲市を視察をいたしました。出雲市というのは非常に鳥取のあのへんぴなところでもって、財政も非常に苦しかったんですけれども、岩國という市長が就任いたしましてからドームはつくる、公民館は建てかえる、学校は木造で建てかえるという、どこから金が出てくるのかということでもって全国の市町村長が注目を集めておるところでございますけれども、実際に調査した結果では、館山市より起債の返還割合が5年度の予算では少ないと

いうことでもって、えっと驚いたわけでございますけれども、10%いっていませんでした。ですから、どこから出てくるのかということでございまして、私は一月前にその岩國市長と直接お会いしまして、1時間ほど食事しながら話したんですけれども、その中でもってその話も出たんですけれども、国の言うとおりにやっていたら地方自治体というのはみんなつぶれちゃうよ。国に金がないんだから、これは当たり前だ。やはりそういう中でもってよく綿密に拾っておくと、随分地方自治体でもらえる金、そういうのがあるんだ。ですから、今回のこの基金条例みたいなものは福祉の強化のために出た基金だから、そのとおりにやったんじゃ破綻しちゃうだろうけれども、その原資はもう市がもらったんだから、3年なり4年たったら、3億なら3億の金を福祉センターの基金に充用する、こういうことをしても違反ではないんだ。そういうような活動をもってやっていけば、初めは文句を言うけれども、それだけでって、後は文句言いません。こういうようなことを言って、ちょっと唖然たるところがあったんですけれども、これからの自治体の長というのはそのぐらいもうすばしこく、国の方もずるいんだから、こっちもその上をいくあれでなきゃいけない、こういうことだったものですから、そういう面でもって、この果実はちょっと——特定財源といえども、3億7,000万円をこれから5年も6年も凍結していくということは低金利時代の中でもって忍びないので、ひとつ御要望をいたして、そういう方向でひとつ事務局も検討してもらいたいし、検討した上で自治省等に交渉して、それがそういう検討したものに使えるようにひとつやっていただけるものかどうかということが1点。

それから、59号の中山間地域ということでございますけれども、これは非常に苦しい答弁でもって、答弁になりません。市長の答弁と部長の答弁、若干ニュアンスの違いもあるわけでございますけれども、実際に私の方は、条例ができたんですから、こことこの水利組合なり、こことこの町内会にはできるというものがわからないと、館山全域が半島振興の指定を受けているからということで該当する。その中の水利組合ということ云々、これじゃあちょっと、どう取り組んでいいのか、そっちもわからないと思うんですが、

こっちもおさらわからないわけでございますので、そこら辺については特定をしていていただきたい。

だけれども、そういう質問をするのも無理だと思うんで、1,000万の基金でもって預金利息という、どんなに見積もったって50万前後だと思います、来年度は。50万前後でもって先ほど言ったように土地改良だとか用排水だとか農道の建設といったって、これはもうとにかく話にも何もならないわけでございます、こういうものが提案されて、いかにも白々しく通っていくということになると、何か余りちょっとぴんとこないんですけれども、そこで質問したいんですけれども、国の補助金については来年以降はわからない、こういうことでございますけれども、これは少なくとも——先ほど斉藤議員が私のところへ耳打ちいたしまして、もうちょっと金いっぱいもらえるようにしてもらわないと、農山間部容易じゃないんだ、館野の山の方なんかひどいものだ、こういうことを言われたので——言ってくれ、こういう助言がありましたから言いますけれども、やっぱり市独自で、今年度の年度末でもって大体3億から5億ぐらいの繰越金も出るだろうから、そういう中からやっぱり1億円ぐらいは少なくとも積んで上乗せしないと、50万円前後でもってこの条例をつくったところでもって、何にも運用できないというふうになるんですから、国から出なかった場合でも、ある程度格好のつくぐらいの基金は——館山市の自主財源、繰越金等を活用してさらにこれを強化する、こういう方向が検討できるものかどうなのか、ひとつあわせて御答弁をいただきたい。

以上をもちまして質問を終わりますので、よろしくお願いいたします。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（渡辺富雄君） 先ほど御答弁した中で、地域福祉基金のほかに館山市の福祉基金があるわけでございます。この制度は、福祉基金の制度は、いわゆる原資、それから利子を合わせた運用型ということで行っているわけでございますけれども、この福祉基金の中でも、デイサービスセンターへの建設費の一部負担と、それから福祉作業所のエアコンの設備費等、実際に支出しているわけです。こういった制度とあわせてこれから運用していきたい

というふうに考えております。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（小沼 晃君） まず、最初の1点目でございますけれども、果実の運用ということになりますと、そう大きな金額ではないではないかということでございますが、先ほどもちょっとお答えいたしましたように、今回のこの基金を設立いたしました趣旨は、いわゆる集落の共同活動を促進することによって中山間地域農村の活性化を図ろうというのが国の方で言っている趣旨でございます。要するにそういう共同活動を活発に展開させることによりまして地域のコミュニティの発展が期待される。そういう共同活動を支援するために、いわゆるこれはハードの部分ではございませんで、主としてソフトの部分で支援していこう、こういうことでございます。ハードの部分につきましては、これはまた従来から行われております土地改良事業とか、そういうようなもので対応をしていく、こういうことでございます。

それから、2点目の1億円規模の基金をどうかというような御質問でございますが、これがハード的な部分の整備というようなことでの御提案であるとすれば、今お答えしましたように、ハードの部分につきましてはその他の土地改良事業で対応をしていけるのではないかと、このように考えます。

なお、このソフトの部分につきましても、事業量が大きくなりまして、運用益で賄えないというような事態になりましたならば、またその時点でそういう支援措置については考えてまいりたい。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 以上で26番議員辻田 実君の質疑を終わります。

以上で通告者による質疑を終わりますが、通告をしない議員で御質疑ありませんか。

飯田義男君。

◎28番（飯田義男君） 1点だけお伺いいたしますが、議案第60号、61号にかかわる問題でございますが、60号のこの損害について、責任の所在はどこにあるか。そして、それに対する措置はどういうことが措置されているか。

それから、交通事故の問題は、いわゆるこちらに一方的な責任があるのか、あるいは相手にも責任があると — いろんなケースがあると思いますけれども、どういう措置をなさっておるのか、過去にそういう例があったのか、そういう問題についてひとつお答えをいただきたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 水道課長。

◎水道課長（谷貝 実君） 議案第60号の事故については、当初市長から説明申し上げましたけれども、夜中と申しますか、朝方漏水によりましてそこへ車が落ちまして、その漏水が原因だということで、私の方から物損 — 人身には事故なかったんですが、車が傷みまして、それに対して補償をしようとしているものでございまして、今まで、過去にはこのような事故はございませんでした。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 総務部長。

◎総務部長（斉藤賢司君） 議案第61号でございますが、これは平成5年5月8日に消防ポンプ自動車で巡回中にその相手方と接触事故を起こしまして、相手にけが、傷害が起きたための和解でございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 水道課長。

◎水道課長（谷貝 実君） 失礼いたしました。

責任の関係でございますが、事故の起因が漏水により道路を破損してのことでございますので、水道が責任を持ったものでございます。

◎議長（福原 勤君） 飯田義男君。

◎28番（飯田義男君） まだ運転手の事故に対する回答が足りないんですけれども、私が申し上げるのは、親方日の丸式で、事故があっても、その責任の所在が一向に問われないというようなことでは、税金を使うんですから、まことに申しわけないと思うわけです。だから、たとえこれが漏水であっても、市の方にその責任がなかったのか。責任があるからこれを払ったわけですから、何かの措置がなされなければいかんのかという考え方があるわけです。全く災害なんかでどうにもならない不可抗力の場合もちろん

あろうと思いますけれども、そういう状態であったのかどうか。

それから、交通事故の場合は、双方にこれは当然責任があろうと思いますけれども、一方的な例えばこちらの責任において事故を起こした場合の賠償をした場合、その運転手に対する措置をどうなさっておるのか、今までそういう例があったのかということを聞いておるわけでございます。

◎議長（福原 勤君） 助役。

◎助役（小幡清之君） 交通事故の場合ですが、運転していた職員に重大な過失があった事故の場合には当然求償ということがあるわけですが、今までそう大きな事故という、重大な過失ということはございませんので、そういう例は過去にはないと記憶しております。

◎議長（福原 勤君） 水道課長。

◎水道課長（谷貝 実君） 相手側の責任でございますが、今回の事故の場合、水が出ていたのは相手方も存じていたんですが、上のアスファルトはまだ崩れていないために、通れると思って通ってしまったので、アスファルトの下が掘れておりまして、急に落ちたということで、相手方の過失は認められなかった事情でございます。

◎議長（福原 勤君） 飯田義男君。

◎28番（飯田義男君） 申し上げたかったことは、やはり交通事故にしても、こういう問題にしても、役所側は今までちょっと簡単に考えておった傾向があると思うんですけれども、特に交通事故あたりも、民間会社と違って、やはり税金からこの賠償金は払っていくわけですから、その人に対してその事故の状況に応じてはやはりある程度の処分をしていかなきゃいかんと思うんですけれども、今後こういう事故に対するシビアな考え方で臨んでいただきたいということを申し上げて、質問を終わります。

◎議長（福原 勤君） 他に通告しない議員で御質疑ありませんか。――御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

委員会付託

◎議長（福原 勤君） ただいま議題となっております議案第58号乃至議案

第62号の各議案は、お手元に配付の議案付託表のとおり、所管の常任委員会に付託いたします。

議案の上程

◎議長（福原 勤君） 日程第2、議案第63号乃至議案第66号の各議案を一括して議題といたします。

質疑応答

◎議長（福原 勤君） これより質疑を行います。

通告がありますので、発言を許します。

21番議員神田守隆君。御登壇願います。

（21番議員神田守隆君登壇）

◎21番（神田守隆君） 議案第63号、一般会計補正予算（第3号）についてお尋ねをいたします。私の質問は議案書に沿って行います。

まず、4ページをお開きいただきたいと思います。第2表、債務負担行為補正として表がございます。これに関してであります。婦人会館を中央地区学習等供用施設として建てかえる事業の補正であります。ここはいわゆる北条地区に属すると思います。既に北条地区にはコミュニティセンターの一部が北条地区学習等供用施設としてつくられております。そこでこの中央地区という名称になったのかと思うのであります。この中央地区というのは、それでは一体どこを具体的に指すのか。予算獲得上の技術的な問題もあろうかと思いますが、御説明をいただきたいと思います。

次に、市内の公民館を見ますと、老朽化していたり、手狭になっていたりするものも見られます。昨今大変公民館を中心とした社会教育活動が活発になっているやに思うわけであります。学習等供用施設という手法で今後もこれらの社会教育施設の建てかえなどについてお考えがあるのでしょうか、お聞かせいただきたいと思います。

次に、9ページであります。老人福祉費中、委託料、老人デイサービス運営委託料 223万 4,000円についてお尋ねをいたします。来年3月からいよいよ

よデサービスが開所とのことでありますが、高齢者や関係者の期待には大変大きなものがあるかと思います。そこで、まずこの事業の内容やその事業についての周知、そして対象者の把握、利用者の見込みなどについてどのようにお考えなのか、御説明をいただきたいと思います。

次に、10ページをお開きいただきたいと思います。保健衛生費の環境衛生費、合併処理浄化槽設置事業補助金 3,422万 4,000円の補正についてお尋ねをいたします。合併浄化槽も大分普及をしてきたなという感じがしております。今回もかなり高額な補正予算ということで、それだけ市民の制度への関心が高くなってきた証左ではないかと歓迎するところであります。そこで、具体的にその普及状況について、どのような状況なのか、御説明をいただきたいと思うのであります。

まず、新設の浄化槽には、し尿だけを処理する単独浄化槽と家庭排水を含めたこの合併処理浄化槽があるわけでありましたが、新設される浄化槽のうち、合併浄化槽の占める割合はどの程度になっているのか。また、その割合は昨今かなりふえてきているのではないかとと思うのでありますが、この状況について御説明いただきたいと思います。

単独浄化槽はなるべく少なくして、合併浄化槽の設置割合が高くなれば、環境浄化に大きな威力を発揮するものと思うのでありますが、なかなかそうはいかない理由もそれなりにあるものと思います。そこで、合併浄化槽ではなく、単独浄化槽を設置する方々もまだかなり多いわけで、そういう方の単独浄化槽を設置した理由はどのようなものなのか、御説明をいただきたいと思います。

次に、議案第65号、水道事業特別会計補正予算についてお尋ねをいたします。25ページをお開きいただきたいと思います。資本金収入支出の中で、水道拡張費として、設計業務で 2,000万円の追加補正がされておりますが、この水道拡張事業に関連してお尋ねをいたします。既に一昨日の行政一般質問において南房総広域水道事業の問題点について質問をいたしましたが、さらにお尋ねをしたいと存じます。

まずは、今回南房総広域水道事業費が増額になったのは、全員協議会で市

が説明した概要書によりますと、広域化施設整備費に関する増額でありました。水源費に関しては増額になっておりません。私の二度あることは三度あると言うじゃないかという質問に対して、今後の増額についてはないというニュアンスの答えが一般質問の中でありました。ところが、勝浦の市議会では、今後水源費に関する増額も考えられる旨の答弁があったとことが報じられています。今回の増額だけでは済まないということでもあります。当然予測されることで、正直な御答弁であったかと思うのであります。この水源費 198億円余であります。偶然であります。今回の広域化施設整備費の増額分と金額的にもほぼ同じであります。この水源費とはどのような費用なのか、その中身について御説明をいただきたいと思うのであります。

次に、この南房総広域水道事業は、各市町村の水事情をもとに、必要水量を積み上げて算出したというよりも、まず初めに全体として7万トンという水量があり、これを17市町村に割り振ったというのが本当ではないかと思うのであります。そして、この7万トンという事業費用規模の大きさからいって、必要な水量ではなかったかと思うのであります。このため、需要見込みと現実との乖離は大きくなる一方ではないでしょうか。そこでお尋ねをするわけですが、市営水道の必要水量を算定する基礎になったとされる人口の伸び率はどのようになっているのか。そして、現実の伸びはどうなのか。また1日1人当たりの最大給水量は何リットルと見込んでいて、実際は何リットルになっているのか、御説明をいただきたいと思います。

次に、平成8年に南房総広域水道から市営水道は日量4,800トンの水を引き受ける予定とすることが答弁でなされましたが、この量は1万人の生活用水に匹敵する量であります。実際にそれだけの需要が出ていないとすれば、その分は責任水量として引き受けるということになるのでありましょくか。ならないとすれば、南房総広域水道の赤字補てんとして、結局は市民あるいは市財政に負担となってくるのではないかと思うのであります。この責任水量の問題についてこれまでどのように論議がされているのでありましょくか、御説明をいただきたいと思います。

以上、御答弁によりまして再質問をさせていただきます。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの神田議員の質問にお答えいたします。

議案第63号、一般会計の債務負担行為補正、中央地区学習等供用施設に關しますお答えと、同じく公民館に關しますお答えは、教育長より御答弁申し上げます。

私の方から第63号の老人デイサービス運営委託料について、この御質問にお答えいたします。事業の内容につきましては、送迎により在宅の虚弱老人等に入浴及び給食等のサービスを提供し、心身機能の維持向上等を図ろうとするものでございます。

周知の方法につきましては、1月号の市広報により、一般市民にPRを図ってまいりたいと考えております。

なお、対象者の把握と利用見込みにつきましては、現在の保健福祉制度を活用し、この事業の利用が見込まれる者を対象に調査を実施しているところでございます。

次に、10ページの合併処理浄化槽補助事業についての小さな第1点目、新設のうち、単独浄化槽に対し、合併処理浄化槽の割合はどの程度か、またそれはふえているかとの御質問でございますが、館山市における設置届け出浄化槽の総数に対する合併処理浄化槽の割合は次のとおりでございます。平成3年度 8.9%、平成4年度14.8%、平成5年度は12月10日現在で20.6%と増加傾向になっております。

次に、小さな第2点目、単独浄化槽を設置する理由はどのようなものがあるかとの御質問でございますが、合併処理浄化槽は単独浄化槽と比較し浄化槽本体が大きく、設置面積が約 1.4倍必要となるため、敷地要件等によるものが多いと思われます。

次に、議案第65号、水道事業会計に關します南房総広域水道企業団の水源費の内容についての御質問でございますが、房総導水路、南房総導水路及び大多喜ダム、それぞれの水源負担金でございます。

次に、企業団の水源は房総導水路及び南房総導水路を利用して取水するこ

とになっておりまして、大多喜ダム用水の一部を水源として確保することから、基本的には企業団が負担することになっております。

なお、市町村の負担を軽減するために、特例の県費補助を一部受けているところでございます。

次に、水需要の見込みについての御質問でございますが、厚生省通達によりまして、水道施設設計指針に基づき推計しました長期的な水需要量でございます。

責任水量につきましては、今後企業団と各水道事業体と協議していく問題でございます。

いずれにいたしましても、本事業を遂行するためには、国、県の財政支援について構成団体一丸となってお願ひしていきたいと考えております。

なお、具体的計数につきましては担当よりお答えいたします。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 水道課長。

◎水道課長（谷貝 実君） 人口の見込みでございますが、最終目標年度の平成22年度におきましては、館山市は6万400人を見込んでおります。

それと、1日最大給水量でございますが、平成12年度は1万2,320立方メートル、平成22年度は1万4,360立方メートルを予定しております。

以上であります。

◎議長（福原 勤君） 教育長。

（教育長高橋博夫君登壇）

◎教育長（高橋博夫君） お答えいたします。

議案第63号に関する債務負担行為補正についての小さな第1点目、中央地区とはどこの地区のことかとの御質問でございますが、補助事業にかかわることから、中央地区の対象地域といたしましては、北条地区のうち三軒町、鶴ヶ谷、新鶴ヶ谷、渚、六軒町1から4、六軒町6、7、北条海岸、八幡及び湊、計13町内でございます。

また、名称については、建設場所が市街地の中央部分に当たり、中央公園に隣接することから、中央地区学習等供用施設としたものでございます。

なお、完成後、施設の運営に当たりましては、愛称を公募し、全市民を対象とした親しみやすい施設とするよう計画しているところでございます。

次に、小さな第2点目、公民館の中には老朽化したり手狭になったりしているものがあるが、これらの建てかえについてどのように考えているかの御質問でございますが、市内には11の地区公民館と中央公民館がそれぞれ生涯学習の拠点として利用されており、地区公民館においては、建設後既に20年を経過しているものもありますが、施設整備について、計画的に改修等を進めております。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） 公民館についてでありますけれども、老朽化しているものについての改修計画を持ってやっているということでもありますけれども、手狭になっちゃって、ちょっとあそこではもう拡張も難しいなんていうのもありますので――地元のことを言って大変恐縮ですけれども、那古地区なんかは大変もう狭くて、私なんかも使うのにもなかなか困っているという実情も実際問題としてございます。ほかの地区でもそういうようなところもあろうかと思えます。したがって、今後の5カ年計画の中でこういう公民館全体についての見直しというようなこともぜひ頭に入れて考えていただきたいと思えます。

デイサービスの関係でありますけれども、まだ現在対象人員について調査中でというお話なんですけれども、対象人員調査中でも予算が出てきているというのはどういうことなのか。予算上の見積もり人員が当然あろうかと思えますので、その辺もう少し具体的に調査があるんじゃないかなと思うんですが、確定的なという段階ではないでしょうけれども、少なくとも予算を策定する上での策定資料があったかと思えますので、その辺の見込みがどのような人数という形で把握されているか。実際の対象人員、またこうした虚弱老人等の把握の仕方というのは難しいかと思うんですけれども、そういう方が市としては実際の調査の中でどのくらいなのかというのはやってみなきゃわからないというのもあるし、確かにその点はよくわかりますけれども、実

際おおむねそういう対象の方のどのくらいの方、割合で今回の予算が考えられているのかなという点をお聞かせ願いたいということなんです。

次に、合併処理浄化槽でありますけれども、新設する浄化槽のうちに今年度は2割を超える浄化槽が合併式になっているということで、3年度に比べても倍以上に伸びて、非常にここへきて合併浄化槽の割合が高くなってきているということで、喜ばしいことだなというふうに思います。そこで、こうした傾向は——千葉県全体としてはこうした合併処理浄化槽の割合がどういうふうになっているのか、県の中でも館山市の今のこうした割合というのは胸を張れる状況なのかどうか、そこらについてどういうふうにお考えになっているのか。県あるいは近隣、こういうところと比較してどうかということでお示しをいただきたいと思います。

次に、水道事業会計でありますけれども、これはなかなか難しい問題で、はっきりとした答弁がもらえなくて、もどかしい思いをするんですが、それが実際の今の状況なのかという思いもするんですが、それだけに今後政策的な方向によって動き得る余地というものもかなりあるんじゃないかなという、そういうふうがいい意味で解釈をしたいなと思うんですが、そこで端的にお伺いしてあれなんですが、水源費という形で198億が事業計画の中で盛られていますが、これに関して勝浦では、市長さんが議会で答弁した中で、これもかなり増額が見込まれる。要するに、長柄ダムから水を引っ張ってくる。その導水路の部分、これは水資源公団の方で事業を行う。それから、それを受ける受け皿として大多喜ダムをつくる。この大多喜ダムは県が県の事業として行うというわけです。これがいわゆる水源費として——そこから水をくみ上げるわけですから、水源費として南房総広域水道が負担をするというのが198億というふうに思うんですが、水資源公団にしても、県が事業としてそれぞれ行うわけで、言ってみれば工業用水の余り水を有効活用しようというのがそもそもの始まりでありますから、こうした水源の——南房総広域水道から見て水源費ということになりますけれども、この部分については、地方自治法第2条第6項ですか、広域にわたる上水道事業は県の事業というふうに明記されている。こうした趣旨を生かして、地方自

治法第2条の趣旨にのっとって県で責任持て、この分は全額県が最終的に責任持て、市町村に負担をかぶせるな。そうすると、198億ですから、今度ふえた分びったりなんです。どういうわけだか知らぬけれども、全く偶然なんですけれども、それくらいのことは求めないといけないんじゃないかなという気がするんですが、そのうちの一部を県が面倒を見るよというようなことではなくて、ほうっておけば、この198億はまだまだ、勝浦の市長さんじゃないですけれども、ふえるだろうという見込みでありますから、一応そのうちの3分の1は市町村で持ちましょうというふうな割合になっていますから、大変なことになろうかと思うんです。そういう点について、この17市町村がどういうふうに——いろんな理屈をつけながら県と交渉しなきゃいけないかと思しますので、その辺についてどういうふうにお考えになるか。

あと、いろいろ問題たくさんあるんですけれども、またこの問題はいろいろな複雑な問題を持っていますので、また違う場所で論議をしていきたいと思えます。一応その辺について、水源費の問題についてどういうふうにお考えかという点に絞って御答弁いただきたいと思えます。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（渡辺富雄君） まず、1点目のデイサービスの利用希望者、その見込みはいかがかという御質問でございますけれども、先ほど市長が答弁した中で、現在各種の保健福祉制度の中から対象者を抽出しまして、206名の対象者に希望をとったわけでございますけれども、133名から実は回答があったわけです。そのうち、希望しますという回答を寄せられたのは53名でございました。またさらに、1月に入りまして、市の広報等によって一般市民へ周知することによってまた希望は多少ふえるかなということから、対象見込みは一応今の段階では60名というふうにとらえております。

それから、合併浄化槽の千葉県下あるいは近隣市町村の設置状況ということとでございますけれども、平成4年度、先ほど市長が答弁しました館山市は14.8%ということですが、千葉県下では31.3%、この数値は少し高いんでございますけれども、これは千葉市等で集中的に数値が高くなっている関係でございします。それから、近隣市町村の安房郡内をとらえてみますと、24.1%

という数値が出ております。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 水道課長。

◎水道課長（谷貝 実君） 南房総広域関係事業ですが、水源費についての御質問でございますが、その前にちょっと訂正させていただきたいんですが、先ほど1日最大給水量ということで、平成12年度1万 2,320、平成22年度1万 4,360とお答え申し上げましたが、これは最大受水量の誤りでございまして、1日最大給水量の予測といたしましては、平成12年度が2万 9,020、平成22年度は3万 1,060立方メートルでございましたので、訂正させていただきたいと思います。

続いて、水源費についてすべて県でというお話でございますが、先ほど市長が御答弁申し上げましたとおり、水源費、それから広域化施設整備費、あるいは今後の給水料金、これらをすべて含めまして、何らかの方法で国、県の援助を強めていきたいということで進んでいるところでございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） デイサービスは60名という見込みで出発するということですが、これも出発ということですから、今後の事業の推移によって――初めてのことでですからいろんなことも考えられますけれども、今後利用が非常に評判がよくて、どんどん担当が枠がなくて悲鳴を上げるというようなことになれば、大変結構なことじゃないかなと思います。そういう形で、住民の中から非常に希望が出るような内容でぜひ頑張っていたきたいなと思います。

合併浄化槽の関係でありますけれども、館山市は20.6%、この平成5年度で非常に急激に合併処理浄化槽がふえてきて、胸が張れるかなというふうにしたところが、ほかに比べればまだまだ低いというようなことで、それも千葉県全体が31.3%、ですから平成4年度だと半分以下の水準、しかも近隣の安房郡管内の市町村に比べても10ポイントから低いということになりますと、なかなか胸を張れないということで大変なんですけれども、近隣でも

富浦町とか富山町は極めて高い。むしろ合併浄化槽の方が単独浄化槽よりも設置基数において多い、50%以上もう合併浄化槽になっているというようなこともお聞きするわけなんです、そういうことを考えますと、先ほど御説明があった敷地要件といいますか、敷地が狭いがためにどうしても単独浄化槽にせざるを得ないんだというのが敷地要件のことだろうと思うんですが、農村部の場合にはそういうことはないんですけれども、漁村部とか市街地の部分ですと、宅地面積が余りないものですから難しいということは当然考えられるんですが、例えば富浦あるいは富山というようなところは、農村部も抱えていますけれども、いわゆる市街地とか漁村部といいますか、そういう部分も抱えている中で、非常に合併浄化槽の設置割合が高いということで、単に敷地要件の問題だけでこの問題を考えるのはちょっとどうかなと思うんです。

そういう点で、そういう近隣の町村、非常に高いところもあるわけですから、そういうところの実情をよく調査をして、館山市として学ぶべき点というのものもあるんじゃないかなと思うんですが、その辺についてどういうふうにお考えか。今後さらにこの20.6%という合併浄化槽の割合を高めていくための手だてという意味で、敷地要件があるからしょうがないんだというようなことではないんじゃないかなと思いますので、その辺どうかということです。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（渡辺富雄君） 確かに近隣市町村と比較してみますと低いわけでございますけれども、この合併浄化槽は河川の浄化等非常に有効な手段でございます、これから積極的に推進をしていきたいというふうに考えております。この合併浄化槽を設置する場合に、市長の答弁の中で、普通の浄化槽と比較して、単独と比較して1.4倍という敷地、これが主な要因だろうというふうに考えております。そのほかには維持管理等、多少単独とは差があるわけでございますけれども、そういったことで、とにかくもう普及させる、いかに普及させていくかということで、これから積極的に行っていきたいというふうに考えております。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 以上で21番議員神田守隆君の質疑を終わります。

次、26番議員辻田 実君。御登壇願います。

（26番議員辻田 実君登壇）

◎26番（辻田 実君） 時間も差し迫っておりますので、2点について要領よく御質問したいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

まず最初は、議案第63号、本年度の一般会計補正予算でございます。議案書の10ページをお開きいただきたいと思います。衛生費中の19節、安房南部伝染病隔離病舎組合事業負担金 1,849万円が計上されているわけでございますけれども、この点について御質問を申し上げます。

館山市は館山市ほか4町村で隔離病舎の一部組合をつくっているわけでございますけれども、現在の館山病院のわきにあるところの収容施設はどうなっているのか、これは使えるのか使えないのか、この点についてまず第1点お伺いします。

2番目には、鋸南地区の環境衛生組合は3町による一部組合としてできているわけでございます。したがって、全く異質なものでございますので、ここにどういうわけで委託をしなければならないのか、この点についてお伺いをいたしたい。

3番目には、委託するからには、当然委託内容というんですか、委託契約というものがなされると思うわけでございますけれども、具体的にはどういう内容のものなのか、どういう形でもって委託するのか、そしてどういう形でもって予算が出るのか、こういうものがあると思うんですけれども、そのところについて、ひとつ基本的なものについて御説明いただきたい。

それと4番目に、負担金を出すわけでございますけれども、鋸南のこの隔離病舎はどのぐらいの規模のものを建てようとしているのか、その予算はどのぐらいなのか、そしてその財政負担というのはどうなっているのか、館山はどういう形でもって総予算に対して1,800万何がしの負担をすることになったのか、この点について御説明をいただきたいと思います。

次に、議案第65号、本年度の水道事業特別会計補正予算について御質問申し上げます。2点についていたします。予算書の24ページでございます。こ

の収入の部の中の水道事業収益の款の中にその他雑収益として98万 8,000円が計上されているわけでございますけれども、これはどういう内容の収益なのか、御説明をいただきたいと思います。

2番目に、25ページ、次のページに移りますけれども、その水道事業費の中の配水及び給水費の中の路面復旧費 128万 9,000円というものが補正されまして、そして 749万 6,000円という予算になるわけでございますけれども、ここに本復旧費ということが書いてありますけれども、これはどういうものなのか、どうしてこの 129万円の財源が必要になったのか、この点についてひとつわかりやすく教えていただきたい。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの辻田議員の御質問にお答えいたします。

議案第63号、一般会計補正予算の衛生費に關します安房南部伝染病隔離病舎組合負担金についての問題でございます。負担金支出の理由は、算定の内容及び病舎建設の内容はとの御質問でございますが、隔離病舎組合事業につきましては、時代の変化、伝染病発生の減少から、千葉県より整理統合、広域化の指導を受けているところでございますが、加えて南部隔離病舎組合の病舎は建築後31年を経過しまして老朽化が進み、使用困難の状況でございます。この対策につきまして千葉県、鋸南地区環境衛生組合及び南部隔離病舎組合で協議をしてまいりましたところ、鋸南地区環境衛生組合の御理解によりまして、南部隔離病舎組合の伝染病患者を鋸南地区環境衛生組合が建設する伝染病隔離病舎に収容委託を行うこと、この建設費の一部を負担すること、この協議が調ったものでございます。

次に、負担金算定内容につきましては、建設事業が1億 2,078万円、そのうち国、県補助金が 1,487万 6,000円、鋸南地区環境衛生組合支出が 6,590万 4,000円、南部隔離病舎組合負担金は3分の1相当額の 4,000万円でございます。

なお、館山市の負担につきましては、南部隔離病舎組合同規約第11条に基づ

き算定されたものでございます。

次に、病舎建設の内容でございますが、建設場所は富山町国保病院に併設し、新築、鉄骨づくり2階建て、延べ床面積291.80平方メートルで、病床数8床でございます。

次に、議案第65号、ここに関します第1点目、水道事業収益のその他雑収益98万8,000円の補正内容でございますが、平成5年9月7日、配水管の漏水により道路が陥没し、普通自動車に損害を与えました物損事故の日本水道協会水道賠償責任保険金でございます。この保険金は、被害者に対する損害賠償金103万9,610円から免責金額5万円を差し引いた98万9,610円でございます。

次に、第2点目、配水及び給水費の路面復旧費128万9,000円の補正内容でございますが、配水管等の漏水に伴う道路本復旧費として、当初予算では過去3年間の実績に基づきまして積算したものでございますが、復旧面積の増によりまして補正するものでございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 辻田 実君。

◎26番（辻田 実君） 最初に、63号の議案について、隔離病舎の問題について再質問をいたします。

鋸南で引き受けてくれるということについては結構だと思います。そこで、思うだけのことでもって、今回のこの提案からいくと、そして今の市長の答弁から私なりに判断しますと、2つの問題についてかなり問題というんですか、疑義があるように受けとめられるんですけれども、この点についてどのようにお考えになっておるのかお伺いしたいわけでございます。

まず第1点は、現に6市町村の南部隔離病舎があるわけでございます。それはまだ老朽化しても存在しているわけでございます。それにもかかわらず鋸南につくる、それに便乗するということでございますから、便乗するのは結構ですけれども、隔離病舎組合というんですか、私も議員をかつて、大分前になりますけれども、務めたことがございますけれども、あそこは隔離病舎があって、それを維持管理するための議会というんですか、一部組合であ

るわけですから、この南部の館山病院のものがもう使えなくなって、今度はこっちへ委託して全部送っちゃうということになれば、そしてそこに負担金を出していくという段階になれば、当然私は並行して鋸南地区の3町と南部の6市町村が合併して一部組合をつくるべきじゃないか。そうでないと、一部組合といっても自治体でございますから、自治法上予算の支出、補助について若干疑義が出てくるだろう。委託ということでもって何とかその疑義は解消できても、正常な形ではないというふうに思うわけでございますけれども、この点どのように考えるか。こっちはなくなっちゃうわけですから、なくなったところに6市町村の組合をつくってどうするんだ、こういう——端的に言えば、3町と合併しちゃえばいいじゃないか。鋸南にあるわけですから、3町がつくっている。そこで、金を出すんだから、金を出すときには、財政上からいっても一部組合と一緒に9市町村でもってつくるべきだ。つくらなければ、今後の運営について支障を来すんじゃないか。金を出して向こうにやってある。こっちはこっちだけでもって、隔離病舎の議会を開いている。だけれども、委託しちゃって、向こうの病床のいろんな管理、維持、運営については3町の議会の議員がやるわけですから、館山は全然タッチできない、そういう形が出てくるんじゃないかということで疑念を持つわけでございますけれども、なぜ9市町村の一部組合へと発展させることができなかったのかということをお伺いしたいと思うわけです。

2番目には、この負担割合がそういう観点に立つと非常におかしいような感じがするわけです。おかしいというか、矛盾があるように。今の市長の答弁でございますと、鋸南3町——鋸南町、富山町、富浦町で、これでもって負担金が、8病床をつくる建設費の負担が6,594万円ということでございます。そして、館山市ほか千倉、丸山、三芳、白浜、和田ですか、この6市町村で4,000万円幾つと少ないんです。人口割合、町村数からいっても、当然同等でいくんだったら逆転しなきゃいけないと思うわけです。随分変な形でもって算出されたんじゃないかという——本来1組合でやるべきだったら、当然こっちの方がかなり多くなって、七、三ぐらいでもって館山の南部地区の方の負担金が人口割合その他で出てくるはずなんですけれども、これが逆

転しているということになると、これはどのように解釈していいのか。最初に向こうへ委託するということ、こっちは使わないということになると思うわけですから、そうなれば、同じに使うんだったら、費用は同じ利用割合でもって出すべきだけれども、こういう形で出てくるということはおかしい。今後館山の方も修理費だとか何かを出して二重でやっていくのかどうなのか、できないものはできないでもって早く廃止してこっちへやるという形はとれなかったのか、この点についてちょっと疑問が生じるものですから、ちょっと見解が違うようでございますから、ひとつ御答弁のほどをお願いいたします。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（渡辺富雄君） まず第1点目の運営するからには正式に合併してやっていくべきじゃないかという御質問でございますけれども、当面は委託という形をとるわけです。そして、それと並行して取り壊しの時期、あるいは廃止、いわゆる南部組合の廃止、これらを含めて今実は話し合い中でございますして、そういったことで、これから当面はそういった形で進めてまいります。

それから、負担割合ということでございますけれども、これは正式に合併する時点で構成メンバーといいますか、鋸南組合あるいは南部組合の構成市町村で運営費等を再調整しようという実は考えがあるわけです。そういったことで、これからどうなりますか。いずれにしても、話し合いで進めていく問題ではないかというふうに考えております。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 辻田 実君。

◎26番（辻田 実君） わかりました。

最初の方の合併していくという話し合いが進んでいる。合併していくんだったら、数からいったって、利用はこっちの方が多いんです。そっちの割合が逆転しているというのはその面で調整するって、調整の額のけたが違います、その運営費の中で。そこら辺ひとつうまくやってください。

以上、終わります。

◎議長（福原 勤君） 以上で26番議員辻田 実君の質疑を終わります。

以上で通告者による質疑を終わりますが、通告をしない議員で御質疑ありませんか。— 御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

委員会付託

◎議長（福原 勤君） ただいま議題となっております議案第63号乃至議案第66号の各議案は、お手元に配付の議案付託表のとおり、所管の常任委員会に付託いたします。

請願書の上程

◎議長（福原 勤君） 日程第3、請願第13号乃至請願第16号の各請願を一括して議題といたします。

委員会付託

◎議長（福原 勤君） ただいま議題となりました各請願は、いずれも12月8日の議会運営委員会開催までに受理したものであります。

お手元に配付の請願付託表のとおり、所管の常任委員会に付託いたします。

議長の報告

◎議長（福原 勤君） なお、この際申し上げます。

12月8日議会運営委員会開催までに受理した陳情書は、お手元に配付の陳情送付表のとおり、所管の常任委員会に送付いたしましたので、報告いたします。

延 会 午後0時04分

◎議長（福原 勤君） お諮りいたします。

本日の会議はこれにて延会いたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（福原 勤君） 御異議なしと認めます。よって、本日はこれにて延会することに決しました。

なお、明16日から20日までは委員会の議案審査のため休会、次会は12月21日午前10時開会といたします。その議事は、議案第58号乃至議案第66号にかかわる委員会での審査の経過及び結果の報告、討論、採決並びに追加議案の審議といたします。

この際申し上げます。各議案等に対する討論通告の締め切りは12月21日午前9時でありますので、申し添えます。

◎本日の会議に付した事件

1 議案第58号乃至議案第66号

1 請願第13号乃至請願第16号

